

第1学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 五代 香織

1 題材 リズムをかんじて

教材 なまえあそび

「じゃんけんぽん」 美龍明子 作詞 橋本祥路 作曲

「ぶんぶんぶん」 村野四郎 作詞 ボヘミア民謡（本時主教材）

「かたつむり」 文部省唱歌

◎「しろくまのじえんか」 平井多美子 作詞 ケン ウォール 作曲

「とんくるりんぱんくるりん」 滝紀子 作詞 川崎祥悦 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、生活経験の中で、自分の好きな歌を歌ったり、歌に合わせて体を動かしたりする活動を通して、リズムを感じて歌うことや、歌に合わせて体を動かすことの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、友だちといっしょに遊びながら歌ったり、歌の中の生き物や動物になりきっていろいろな動きをつくったりしたいとする欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌や音楽に合わせてリズム打ちをしたりステップを踏んだりする活動を通して、拍の流れを感じ取って歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする能力を育てるとともに、音楽に合わせて進んで表現・鑑賞しようとする意欲や、リズムを感じ取りながら拍の流れを感じ取って表現を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「リズムをかんじて」を設定した。

ここでの学習は、2拍子や3拍子の違いを感じ取って、歌ったり歌に合わせてリズム伴奏をしたりする能力を育てる題材「2びょうしと3びょうし」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れに合わせてリズムフレーズを表現したり鑑賞したり能力を高めるには、教師や友達の演奏をよく聴き、音楽を形づくっている要素に気を付けながら、繰り返しリズム唱やリズム打ちに親しむことが効果的である。特にこの期の子どもたちには、範唱や範奏をよく聴き、拍の流れを体全体で感じ取らせながら、音色感やフレーズ感、リズム感を育てることが大切である。

具体的には、まず、「なまえあそび」の活動や「じゃんけんぽん」を取り上げる。これらの活動や曲は、〇〇〇・のリズムフレーズを基にリズム模倣遊び等を十分に経験することができる。そこで、ここでは、リズム模倣遊びや〇〇〇・のリズムで身振りを入れて楽しむ活動を通して、拍の流れを感じ取りながらリズムを演奏する楽しさを味わえるようにするとともに、ほかの言葉や歌でも活用できそうなことに気付かせる。

次に、「ぶんぶんぶん」、「かたつむり」を取り上げる。これらの楽曲は、8分音符や符点等の同じようなリズムが繰り返され、強拍を感じ取りやすい楽曲であるとともに、身近な生き物を取り上げているため情景を想像しやすい。そこで、ここでは、リズム譜によってリズムを視覚的にとらえながら手拍子や打楽器でのリズム打ちや動物を想像して歌う活動を通して、これらのリズムに親しみ、情景を思い浮かべながら歌い方を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、音楽設計図を作成し、表現の意図や思いを話し合いながら表現・鑑賞する場を設定することで課題解決への到達度を振り返りながら活動するよさを実感させる。

さらに、「しろくまのじえんか」を取り上げる。この楽曲は、強拍と弱拍が明確で、拍の流れを感じ取りやすい楽曲である。そこで、〇・〇・〇〇〇・のリズムに合わせて友だちとジェンカのステップを踏みながら踊ることで、拍の流れやリズムを体全体で感じ取る楽しさを味わえるようにする。

最後に、「とんくるりんぱんくるりん」を取り上げる。この楽曲は、「とん」や「ぱん」という歌詞から3拍子を感じ取りやすく、中間部との曲想の違いも感じ取りやすい。そこで、ここでは、絵

譜の提示や言葉によるリズムの表現とともに、体を動かしながら強拍を感じ取る活動やリズム打ちの活動を通して、様々なリズムパターンや同じ3拍子でも異なる雰囲気を感じ取る楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら目指す表現に向かって表現したり鑑賞したりすることへの意欲を高め、友だちと体を動かしながら音楽のよさや面白さ、美しさを味わうことができる。また、課題解決への到達度を振り返りながら、楽しく音楽とかわかっていこうとする態度を身に付けることができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 1年ろ組 男子18名 女子17名 計35名）

本学級の子どもの実態は次の通りであった。

①	音楽に合わせて手合わせ遊びをしたり、じゃんけん遊びをしたりするのは好きですか。
	はい(30) いいえ(5)
②	その理由を教えてください。
	【「はい」の理由】 ・友だちとやるのが楽しいから(15) ・歌ったり体を動かしたりするのが好きだから(12) ・元気になるから(1) ・幼稚園のころにやって楽しかったから(1) ・友だちができるから(1) 【「いいえ」の理由】 ・合わせるのが難しいから(2) ・動き方がわからないから(2) ・ついていけないから(1)
③	みんなで歌ったり音楽を聴いたりする時は、どんなことに気を付けていますか。(複数回答)
	・先生や友だちをよく見てまねする(11) ・声をそろえる(7) ・速さをそろえる(7) ・よく聴く(5) ・楽譜を見る(1) ・しかられないようにする(1) ・分からない(9)
④	先生が手拍子をしたあとに、まねをして手拍子をしましょう。
	・できる(31) ・できない(4)
⑤	「さんぽ」に合わせて○・○・○○○・のリズムを手拍子しましょう。
	・拍の流れに合わせてできる(29) ・拍の流れに合わせてできない(6)

①②から、音楽に合わせて体を動かしたり、遊んだりすることの楽しさを多くの子どもが感じている。一方「好きではない」と答えた子どもたちの理由として、友だちと動きが合わなかったり、みんなの動きについていけなかったりすることが挙げられた。これは、歌いながら体を動かすということが技能的に難しかったり、伴奏が速すぎたりすることが要因であると考えられる。そこで、動きを確かめながら覚えさせたり、ゆっくりした速度から取り組ませたりして、拍の流れに合わせる喜びや楽しさを味わえるようにする必要がある。

また、③から、教師や友だちの動きを模倣しようとする子どもが多く、よく聴いて音色や速度を合わせようとする子どももいる。しかし、歌詞や音楽を形づくっている要素を関係付けて表現の工夫をすることは意識していない。これは、1年生という発達の段階から、無意識に活動に没頭していることが要因であると考えられる。そこで、歌詞のもつイメージを豊かにとらえさせたり、リズムの特徴を感じ取らせたりする活動を設定する必要がある。

④⑤から、教師のまねをして手拍子をしたり、音楽に合わせてリズム打ちしたりすることはほとんどの子どもができています。しかし、一定の速度を保てず、拍の流れに合わせられなかったり、8拍のリズムフレーズになると覚えられなかったりした子どももいる。そこで、教師の動きを模倣する活動や、絵譜や言葉に置き換えたリズム唱等で把握できるようにしていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、遊び歌のよさや面白さを実感し、進んで活動に取り組むことができるようにしていく。そのために、今までの生活経験を想起させたり、実際に遊んでいる様子を提示したり、どのような時に生かすことができるかを話し合う場を設定する。

イ 課題追求Ⅱ・Ⅲの過程では、子どもたちが、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるように、絵譜や言葉で示したリズムフレーズを視覚的にとらえながら活動したり、音楽設計図を基に、表現の意図や思いを話し合いながら表現・鑑賞する場を設定する。

ウ 課題追求Ⅳの過程では、子どもたちが学習してきたことを生かして、拍の流れを感じ取りなが

らリズムによって表現したり鑑賞したりすることができるように、自分たちで合うリズムをつなげさせたり、体を動かしながら拍の流れを感じ取る活動を取り入れたりしていく。

3 目 標

- (1) リズムによって歌ったり体を動かしたりすることに関心をもち、拍の流れにのっているかを振り返りながら、進んで音楽活動に取り組むことができる。
- (2) リズムを感じ取りながら表現したり鑑賞したりするための工夫をすることができる。
- (3) 範唱や伴奏を聴きながら拍の流れを感じて表現したり、鑑賞したりすることができる。

4 指導計画（全9時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握			なまえあそびをしよう。	○ 「〇〇〇・」にリズムを当てはめやすいようにするために、2～4文字の果物等を例示する。
課題追求Ⅰ	1	なまえあそび	○ りずむのまねっこあそびをする。	○ 歌詞と動きを関連付けながら活動できるようにするために、模倣をする活動を取り入れる。
	2	りずむ	りずむりれえはたのしいな。	○ 動きを入れる箇所のリズムを視覚的にとらえられるようにするために、絵譜を掲示し歌詞と対応させる。
	3	じゃんけんぼん	じゃんけんをしながらうたおう。	○ 拍の流れに合わせて踊るよさや面白さに気付かせるために、個人でじっくりと取り組んだり人数を徐々に増やしたり、動きに変化をもたせて鑑賞させる。
			○ 主旋律の聴唱をする。	○ 動物のまねでイメージを膨らませ、表現の工夫をする楽しさを味わうことができるようにするために、写真や映像を提示する。
			○ 歌詞の内容と体を動かす活動とを結び付けてじゃんけん遊びをする。	○ 音楽設計図を作成させ、自分の思いや意図と到達度を比較しながら課題解決していく。
課題追求Ⅱ	4	ぶんぶんぶん	たん・たんのりずむはわかったぞ。	○ 分割リズムが感得できるように視覚的にとらえやすい絵譜を準備するために、する。また、付点のリズムや分割のリズムの違いを感じられるように、「じゃんけんぼん」で使用した絵譜と分割されている絵譜とを比べるようにする。
	5	かたつむり	はちさんやのばらさんのようすをおもいかべてうたったりてをたいたりしよう。	○ ともに遊び歌の楽しさを味わい、生活に生かせるようにするため、どのような場面で生かせるか話し合う場を設定する。
			○ 主旋律の聴唱をする。	○ リズムに注目して歌うことができるようにするために、「ここでは、どんなリズムが出てきているかな。」と発問する。
			○ リズム譜を見ながら手拍子でリズム打ちをする。	○ 繰り返されるリズムのリズム打ちをしたり打楽器で演奏したりする。
			○ イメージに合う歌い方を工夫する。	○ 1・3段目と2段目の旋律の感じの違いについて話し合う。
課題追求Ⅲ	6	しろくまのじえんか	かたつむりさんのことをおもいかべながらうたおう。	○ 旋律の感じの違いに合うようにリズム打ちのしかたや歌い方を工夫する。
	7		○ リズム譜を見ながらリズム唱をしたり、手拍子を打ったりする。	
			「たた」と「たっか」のりずむのちがいをたくさんみつけたよ。	
課題追求Ⅳ	8	りんぱん	たのしいじえんかのおどりをおもいかべながらきこう。	○ 繰り返すリズムに気付き、これまでとの違いが分かるようにするために、題材内で使用した絵譜を提示し、違いについて話し合わせ、振り返る場を設定する。
	9	りんぱん	りずむのってとんくるりんぱんくるりんをうたおう。	○ 3拍子の感じを感じ取ることができるようにするため、リズムフレーズの拍数が2拍子のものと比べるようにする。
まとめ			おなじリズムでもかんじがちがうのが、はっきりとわかるようになったよ。	

5 本 時（4／9）

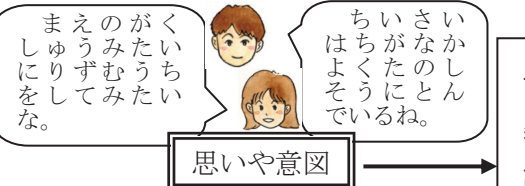
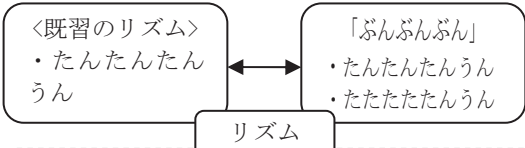
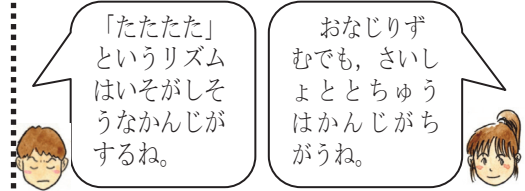
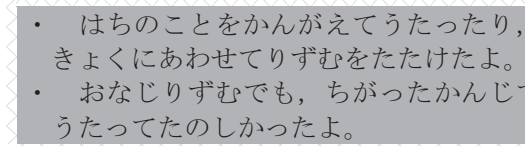
(1) 目 標

リズムに気を付けながら歌うことに関心をもち、はちやのぼらの様子を思い浮かべて歌い方を工夫し、拍の流れを感じながら表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちに拍の流れを感じながら8分音符の分割のリズムを感じて表現させるために、前時までのリズムパターンを絵譜や歌詞カードを使って振り返る活動を取り入れる。また、歌詞の内容やリズムからはちやのぼらの様子を話し合い、表現の工夫をさせるために、楽しい曲の気分と、はちやのぼらの様子とを関係付けられる音楽設計図を作成する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 リズム遊びをする。 2 「ぶんぶんぶん」の範唱を聴く。 	(分) ↑ 8 ↓	○ 楽曲のイメージをふくらませるために、「どんな生き物が出てきたかな」や「本物を見たことあるかな」と発問し画像を提示する。 ○ 子どもの思いや意図を可視化できるようにするために、設計図に考えを書き込んでいく。
課題追求	3 本時の学習について話し合う。 はちさんやのぼらさんのようすをおもいうかべてうたったりてをたいたりしよう。		○ 曲にあったリズムを探らせるために、いくつかのリズム絵譜の中から楽曲にあったリズムを考えさせる。
旋律把握	4 聴唱による旋律把握をし、歌に合わせてリズム打ちをする。 	↑ 27 ↓	○ 8分音符の分割リズムの繰り返しに気付かせるために、分割のリズムを「たんたんたんうん」「たたたた」などの言葉に変えたものを提示する。
表現の工夫	5 それぞれがもっているイメージに合うように、歌い方を工夫する。 		○ 表現の高まりを吟味し、お互いの良さを認め合うために、ペアでリズム打ちをしたり、友達の考えを実際に試したりする場を設定する。
相互発表・鑑賞	6 相互発表・鑑賞する。 ・ りずむにあわせてうたうことができるね。 ・ たのしいかんじがでているね。	↓ 10 ↑	○ よりよい表現方法について考えを出させるために、「どんな様子ができるようにしたいのかな」等と発問し、音楽設計図を基に、最初に抱いた思いや意図と合っているか相互発表・鑑賞する。
まとめ	7 学習のまとめをする。 		○ 自分や友達の高まりを実感させるために、「どうしてそう思ったの」、「どんなことをして分かったのかな」などと発問し、本時の学習の過程を価値付ける。